

Title	不景気の由来及び効果
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.1 (1915. 1) ,p.15- 37
JaLC DOI	10.14991/001.19150101-0015
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150101-0015

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

獨逸の經濟學者の間にも此制度を採用するものと賛成するもの多からざるなり單に穀價調節よりいへば其穀物にして世界の多くの國に於て生産せられ世界多くの國に於て消費せらるゝものにありては東洋經濟新報の主張する如く穀物輸入税を撤廢する方が寧ろ其目的に副ふものゝ如し何となれば比較的廣き地域内に於て需要供給を調節するは比較的狭き地域に於て之を調節するに比して寧ろ價格を變動せしめざるが故なり穀價の變動を少くすることが國民經濟上必要にして之が爲に多少の犠牲を辭せずとすれば予輩は輸入税の撤廢は穀價調節の唯一手段とは信ずると能はざれども最も實行し易き手段なりといはんと欲するものなり。

不景氣の由來及び效果

氣 賀 勘 重

不景氣なる嘆聲は由來常に一部の商工業者より聞く所殊に決算期たる年末に際しては殆ど毎歳之を耳にせざることなしと雖も併し時と場所とに依り其聲に大小あり之を口にする者の實際に之に難むの程度亦甚だしく大小の差あるものゝ如く現に今年に入りて以來我經濟社會に於ける此嘆聲は日に月に益々高きを加へ來りて昨今に於ける不景氣は實に二十餘年以來未聞の現象なりと稱せらるゝの有様なり敢て問ふ常に斯の如く多少の形跡あり而して時に依り其程度に大小の差別ある此の所謂不景氣なるものは何ぞや。

虚心坦懷以て其語義の存する所を察すれば世俗の所謂不景氣とは收入豫期

の如くならざるの狀態を云ふに外ならず。従つて商工業者の所謂不景氣とは豫め一定の代價を得可しとの推測の下に市場に提供し若しくは市場に提供するの準備に着手したる其商品が其豫想の價格にて販路を得難きの狀態に陥れること、換言すれば需要の狀態豫想の如くならず、供給と其權衡を失せるが爲に其商品の販路全く杜塞せるか若しくは非常に代價を引下ぐるに非されば之を賣却するを得ざるの狀態を云ふなり。即ち需要と供給の相平行せざるより生ずる一現象にして、變動極りなき當今の交易的經濟社會には常に一部の産業一局部の地方に常に現はるゝの事實に屬し、敢て決して異とす可きものに非ず。不景氣の聲の常に社會の一部に其跡を斷たざる復た怪むを要せざる可し。

由來、何れの社會を問はず供給は常に需要に適合せんとするに汲々たるものなり。自足自給の家内經濟に於て其生産が當該家族の欲望の方針及び強弱に追従すると等しく、當今の交易的經濟社會に於ても社會現存の資本と勞力とは常に企業家の活動に依りて社會の需要に追従し、需要ある貨物の生産に投入せられんことに汲々たるものなり。故に社會全般の消費狀態に變化なく、従つて需要の狀態に變

動なしとせば供給は能く其需要に適應して終には能く不景氣の跡を根絶するに至るを得可しと雖も、需要の本源たる消費の方針及び分量は種々の原因より生ずる物價の變動と所得關係の推移の爲めに斷えず多少攪亂さるゝを免れざるものあり。蓋し或る貨物、假令ば米麥若しくは織物の如き貨物の代價にして凶作又は原料不足の如き事情の爲に騰貴することあらんか、世人は其所得中從來よりも多額の部分を此代價騰貴せる貨物の購入に投ずるか、將た他に低廉なる代用物を求むるか若しくは其貨物の消費を節省するの外なく、何れにしても需要の方針及び分量に推移を生ずるを免れざる可く、而して或る貨物の代價下落の場合も亦之と等しく、其下落の爲に世人の所得消費に餘裕を生ずるに至れる其餘剩所得は、從來の貨物の消費額増加か若しくは他の貨物の需要増加と爲りて、結局需要の方針及び分量の上に變動を生ず可きなり。所得關係の推移は稍之と事情を異にし、其推移が同一階級者間に起れる場合、即ち例へば甲勞働者の所得増加して乙勞働者の所得減少すると云ふが如き場合には、同階級者の欲望の順序及び種類は全般の上に於て大差なきの常なるが故に、通例其需要貨物の種類及び分量にも變動を及ぼさざる

の常なるも之に反して其所得の推移が例令ば労働者の所得減じて企業家若しくは資本家の所得増加すると云ふが如く、異なる階級の間に起れる場合には、各階級の需要する貨物自ら異なるものがあるが故に、需要の方針及び分量も亦全般の上に於て多少の變動を免れざる可し。然るに斯る物價の變動と所得關係の推移とは自由競争と私有財産制度とを原則とせる今日の交易的經濟組織の下に於て斷えず起るの事實なるが故に、供給が如何に需要に適合せんと勉めつゝあるも、其適合は常に斷えず多少攪亂せらるゝを免れざるなり。

然れば供給殊に生産が此需要方針の變更に適應せんとする其際に於て、其變更の爲に需要の減せる貨物を生じ、該貨物の生産及び供給に従事せる労働者及び企業家に損害を蒙らしめ、此に所謂一部分の不景氣を現出するは、供給をして常に新なる需要關係に適應せしむる爲に免る可らざる一時的過渡的の現象に屬し、普通の場合に於ては、此需要なき貨物は多少の損失の下に低價に賣却し盡され、其生産又は販賣に従事せる者は一時の間其所得を失ひ購買力を減ずるも、間もなく他に新に需要の増加せる産業に移りて其所得及び購買力を恢復するに至り、需要と

供給の適合は甚だしき障害を見ずして間斷なく其實を現するの常なり。故に世上常に見る所の局部的小區域の不景氣は通例一時的の現象として甚だしく經濟界を害するものに非ずと雖も、然かも時としては需要と供給の此適合作用容易に功を奏せず、兩者の均衡容易に恢復せざることあり。然る時は其供給貨物の需要減退せる産業の従事者は企業家労働者共に其所得を失ひ購買力を減ずるのみならず、延ひて其資本主にも損失を及ぼし其購買力を減せしむるに至り、而して此等各關係者の購買力の減少は該購買力を目當とせる他の生産者をして該購買力の恢復するまで生産物の代價低落を忍ぶか若しくは其産出額を減少するの外なからしめ、此に其生産者をして更に其所得と購買力の減少に苦ましむるに至ることあり。需要と供給の關係が斯の如く永く其均衡を得ずして、其生産及び販賣の關係者を一般に窮境に陥らしむる時は其狀態を稱して當該産業上の恐慌と云ふ。産業上の恐慌とは即ち不景氣の比較的永く繼續するものゝ謂に外ならざれども此不景氣は其繼續の永き丈け經濟上の慘害亦從て大なるものあるのみならず、其繼續愈々永きに從ひ前述の如き關係よりして甲の産業より乙産業、乙の産業より丙産業へ

と漸次傳染して其害毒を及ぼすの實あるが故に、日常普通の不景氣と同一視して輕々看過するを得ず。實に當業者其人のみならず、一般の産業従事者並に學者政治家の注意警戒を怠らざる所たるなり。

二

人類の經濟生活が不斷の變化の裡に進歩しつゝある以上、一時的の需要供給の不均衡の常に發生するは免る可らざること前述の如しと雖も、時として其不均衡が斯の如く永く繼續することある所以のものは何ぞや。今熟らゝ其由來を尋ねるに斯る不均衡の原因と認む可き事情は需要供給何れの方面にも明に存するものあるなり。

先づ需要の方面に就て之を觀れば、需要方針の變動に基ける物價の昇降は其なり。此市價の變動は例令ば流行の變化の場合の如く社會多數人の嗜好即ち欲望其物の變更の爲に一部生産物の市價暴落するより生ずることあり、或は戰爭の爆發、惡疫の流行等の如き外界の事變の爲に或る種の貨物に對する需要の頓に減少し他の貨物の需要頓に増加するより來ることあり、將た或は凶歲の場合の如く或

る種の貨物の供給激減市價騰貴の爲に多數の人士が其所得の大部分を該貨物の購入に投ずるの必要上、他の或る貨物に對する需要自ら減退せるより來ることあり、或は又比較的低廉にして且つ品質優良なる外國品の輸入増加せるが爲に從來の内國生産品に對する需要減退せるより起ることあり、其本源たる事實は種々雜多なりと雖も、兎に角、從來の需要方針を一變して一部産業の生産物に對する需要を激減せしめ、其物價の下落が舊來の從業者一般を困厄の地位に陥らしむるに至りては其歸皆一なり。

而して此物價の騰落に次で恐慌の原因と爲るものは所得分配の不平等なり。現經濟制度の維持せらるゝ限り社會各員の所得に大小種々の等差あるは免れざる所なりと雖も、此不平等は時に社會の一部に需要の變動を惹起すの原因と爲らざるを得ざるなり。蓋し所得大なる者と所得小なる者とは其所得に依りて滿たさんとする欲望に於て多少強弱の等差あり、大所得者が所謂其最後の一錢に依りて滿さんとする直接の欲望は小所得者の同種欲望の如く痛切ならざるものなるが故に、大所得者は其所得の一大部分を擧げて資本に轉用する場合少なからず。是に

於てか大所得の一部分は需要増加の一原因となりて其消費貨物の生産に従事する者を潤すに至る可しと雖も其餘の一部分は直接の消費貨物の需要の原因と爲らず、其所得が小所得者の手に歸したる場合とは貨物需要の方針を異にするに至るなり。故に日常斷えず増加しつゝある國民所得の分配状態が推移するに従ひ、需要の方針亦自ら推移すると共に、此推移は動もすれば其増加所得の分配が一方に偏して結局資本家其他大所得者の購買力増進を致さしむる其一方に於て、無資産者小所得者の購買力の比較的減退を生ぜしめ、此に従來に於ける需要と供給の平行的進歩を妨ぐるに至るなきを保せざるなり。殊に大所得者の貯蓄せる所得が生産上の資本として生産貨物の購入に投下せらるゝ分量は將來に期待し得可き市場の購買力の如何に依り多少あるが故に、小所得者の消費力の比較的減退は此市場の購買力の減少の原因として又生産的貨物に對する企業家の購買力をも減少せしむるの因とならざるを得ず。所得分配關係の推移が往々にして大不景氣の原因と爲るものなること以て知る可きなり。

更に供給の方面に在りて此均衡を破るの事實を觀れば其第一は技術及び生産方法の變動殊に其進歩なる可し。蓋し日進月歩の今日に於ては生産の技術の日々に新なるもの現はるゝは勿論、市場も益々擴張され、經濟組織に關する法律制度も亦多少變更せらるゝは勿論なるが、此推移變更の間に於て一切の事業は悉く其進歩變遷に平行し得るものに非ず。幾多の事業は或は新技術新販路の發現を知らずして舊來の生産方法を墨守するものあると共に、又一方には新技術新組織を知りつゝ然かも資本の缺乏其他止むを得ざる事情の爲に不利益なる條件を忍びつゝ其事業を續行するものあるを免れず。是に於てか新なる技術を應用し新なる組織に適應せる生産業との競争の爲に舊式の企業中の大多數は非常の苦境に陷るを免れざるのみならず、時としては其苦戰惡闘的の競争の爲に當該産業全般の上に生産過剰を惹起して、此に激烈なる恐慌を生ずること少なからざるなり。而して最近數十年に於ける異常なる交通機關の發達と器械的技術の進歩とは實に世界各國の經濟界に斷えず斯る大變動と之に伴へる恐慌を惹起したるの實あるを見る。

其他時としては資本と勞力の割合の變動も亦時に一部の産業に永續的不景氣を惹起するの原因たることなきに非ず。蓋し社會現在の勞力を實際に經濟上に

使用し得るの程度は現存資本の多寡に依り、其資本量に適應する程度以上の勞力は、縱令ひ現在するも有利に之を生産又は營利業に利用し得ざるものなるを以て、勞力の増加が資本増加の割合以上に上る時は此に勞働者の一部は職を得る能はざることゝ爲り、社會の一部に失業者の續出する所謂勞働界の恐慌を來たすことなきに非ず。而して此勞働界の恐慌は、總て勞銀一般の低落、勞働者の消費力減退と爲り、遂に勞働者の需要品の生産に従事せる産業に不景氣を生ぜしむることなきに非ず。斯る資本と勞働の不均衡は器械的技術發達の爲に資本の必要益、大を加へ勞働者の必要割合に加はらざりし前世紀以來屢見たる所なるも、之と反對に資本の増加に比して勞働の増加に伴はざりし場合、即ち勞力不足の爲に資本の利用困難と爲りし場合は事實上殆ど之を見たることなし。蓋し器械的生産發達の結果勞力を節約すること容易と爲りし爲に外ならざるなり。

此資本勞力の割合の不均衡と等しく相互相關聯せる諸生産業の割合の變動も亦往々其關係事業の間に生産と需要の不均衡を惹起すの原因たり。蓋し社會的分業の發達せる現今の社會に於ては大多數の貨物は數多の獨立なる企業の協同作

用に依りて生産せらるゝこと、例令ば機械の生産が石炭業、鐵鑛業、製鐵業、製鋼業、製材業、林業等の協同作用に依り、紡績系の生産が農業家、機械製造業者、動力供給業者の協力に俟つが如き次第なるが故に、若し一朝或る生産業に必要な貨物にして適度以上又は適度以下に産出せらるゝことあらんか、適度以上の場合には所謂生産過剰と爲りて其貨物の價格低落するを免れざる可く、之に反して適度以下の生産の場合には一部の企業家中其貨物を得る能はざる者を生ず可し。然かも其貨物を得ることは之を原料又は補助材料とせる企業の經營に必要なりとせば、各企業家は爭ふて其購入を競ひ、其代價を騰貴せしめて、爲に生ずる生産費の騰貴に堪ゆる能はざる比較的薄弱なる企業家は復た此貨物を購ふ能はず、其經營を縮少又は停止するの外なきに至る可し。然る時は該貨物と相關聯して使用せらるゝ他の貨物の需要は多少減少せざるを得ず。即ち何れにしても一部の産業に販賣不能、供給過剰の實を生ぜざるを得ざるなり。然かも斯る供給過剰の状態は各生産者に市況洞察の明なきか又は相關聯せる企業に投せられたる資本の分量及び種類が急速に其投入方針の變更を許さざる場合に於て、餘程長期日に亘りて繼續すること

少なからざるを見る。

三

以上挙げたる五種の變動は何れも常に多少の形跡を實社會に存じ、從つて常に一部の企業の收利力を減損せしめつゝあれども、平素其形跡の小なるものは廣く其影響を及ぼすことなく、需要供給の適應作用亦間斷なく其功を奏しつゝあるが故に甚だしく世間の注意を惹かざるなり。然るに此變動大にして且つ長期に亘れる場合には其影響の及ぶ所亦從つて廣く、企業の收利力を失ふ者も其數及び程度共に甚だしく大なるものあり。是れ所謂産業界の恐慌なる特種名稱の此不景氣に付せらるゝ所以なり。

果して然らば如上の變動は如何なる場合に於て其影響を長期に及ぼし其慘禍を實現す可きや。斯る影響の永續するは畢竟一は其原因たる變動其物の永續即ち例令は流行の變化間斷なく行はれて供給の之に追從するを許さざるが如き、將た或は戰爭疫癘等の永く繼續して平時の状態に復せざるが如き事實に基因するものと勿論なりと雖も、又一方には變動其物に斯る永續の實なきに拘らず其結果たる

不景氣の永く存續して其慘禍を大ならしむること少なしとせず。而して斯の如く其結果たる惡影響をのみ永く存續せしむる所以のものは他なし、當該變動の爲に生せる需要と供給の一時的不均衡の再び均衡に歸するを妨害する事情の時に存するあること即ち是なり。

今此均衡の復歸を妨ぐるの障害と認む可き事實を観るに凡そ四種あり。多數の場合に於て資本及び勞力の轉用困難なること、詳言すれば不景氣に遭遇せる事業より比較的好景氣なる事業に資本及び勞力を轉用することは多くの場合に於て技術又は資本貨物の性質上殆んど不可能なるの實あることは其一、或は其資本及び勞力の轉用全然不可能事に非ずとするも其轉用の爲には多大の損失を免れざることあるは其二、國民經濟上に於ける勞力及び資本の需要は明に洞觀し難きが爲め、諸人往々投資の方針を誤り、勞力の正當なる分配爲に大に妨げらるゝ場合少なからざることは其三、而して其四は所得分配の不公平を惹起す資本所有高の相違が現經濟制度必須の原則として存在すること是なり。此等の事實は交易經濟の社會には常に多少其形跡を存せるものなりと雖も、資本的生產愈々發達して固定

資本の分量益々多きを加へ、交通交易愈々發達して市場益々擴大し、自由競争益々發達して財産の懸隔益々著しきを加ふるに従ひ益々著しく需要供給の均衡に歸著するを妨害するに至るの風あるなり。

四

由是觀之、産業上の恐慌なるものは經濟社會の一部に常に其跡を絶たざる普通の不景氣の比較的永續し其影響亦從つて一層深酷なるものに外ならず。等しく供給に需要の伴はざるの致す所にして、其發生波及並に經過何れも尋常普通の不景氣と其趣を等ふせり。即ち所謂の恐慌は先づ一定地點一定産業に於ける貨物の不捌け又は其價格の急落に初まり、此に生産業者の產出額の緊縮と労働者の解雇とを喚起して兩者の所得減少を惹起することとなるが、此所得の減少は即ち其企業家及び労働者の購買力の減少に外ならざるが故に、此等の人士の消費物件は勢ひ其需要を減少せざるを得ず。従つて其消費物件の生産業者は其產出額を緊縮し其労働者を解雇するの必要に迫られ、此に其生産業者と労働者の所得及び消費能力亦爲に減少する次第と爲る。然るに此消費能力の減少は又更に他の生産業者及び労働

者に同様の影響を及ぼさずんば止まざる可し。一定地點一部産業に起りたる不景氣は即ち通例斯の如くして其影響を社會の全局面に及ぼし、此に消費沮喪せるが故に生産は沮喪し、生産沮喪せるが故に消費亦沮喪すと云へる一種の詭論を事實に現じて、資産家は資産を失ひ労働者は労働の機會を失ひ共に所得の減少喪失の厄運を見るに至る。之を恐慌の波及性と云ふ。而して是れ實に産業界の恐慌の現はれ来る普通の徑路たるなり。

然り而して斯る恐慌の波及が如何なる範圍に亘り、其慘害が如何なる程度に達して止むかは、一に其起點たる産業の國民經濟上に於ける地位如何と初發の不景氣の激甚の程度如何に依るとにして、其産業に投せる資本愈々多く之に衣食せる企業家及び労働者愈々其數を加ふるに従ひ、將た又其初發の不均衡の愈々激甚なるに従ひ恐慌は益々其範圍を廣ふす可く其影響も亦益々深酷なる可し。例令ば汽船發達の爲に生ぜる帆船業の恐慌は紡績業の恐慌よりも其影響小に、又織物業の恐慌は農業の恐慌よりも其影響小なるが如し。而して此點より觀れば同一産業の恐慌も國に依り其産業の國民經濟上に於ける地位の相違に従ひ其影響の範圍及

び程度に相違あること又論を俟たず。例令は現時の英國に於ける農業恐慌は獨逸の農業恐慌よりも其影響少なく獨逸農業の恐慌は我國の農業恐慌よりも影響割合に小なる可きか如し。其他戦争の爲に交通交易杜絶するに當り商工國の困難が經濟上一般に農業國よりも大なる所以の如き、又畢竟其交通杜絶の爲に生ずる恐慌が農業上よりも寧ろ商工業の上に直接に襲來するが故に外ならざるなり。

五

所謂る産業上の恐慌なるもの、由來及び經過大略斯の如しと雖も、此不景氣の繼續は必然幾多の倒産を生じ、世間の信用を危ふするが故に、其結果は信用の緊縮となり、支拂の停滯と爲り遂には所謂る貨幣及び信用上の恐慌を隨伴するに至るを免れず。斯くて産業界の不景氣は縱令ひ貨幣及び信用上の恐慌と稱す可き程の現象を生ずるに至らずとするも、少なくとも多少金融上の不景氣を隨伴するを常とすると共に、其一方に於て産業上の恐慌は又此貨幣及び信用上の恐慌の爲に誘發せらるゝこと少なからざるなり。

即ち通貨の濫發又は其緊縮に伴へる貨幣價值の變動が權利者又は義務者をし

て意外の損失又は利潤を蒙らしむるものあるは貨幣論の理論の普通教ふる所なるが、此意外の利潤又は損失は正業に従事する者をして非常の不安を感せしめ、生産をして全然投機的ならしむるが故に、動もすれば此需要と供給の不平衡を生ぜしむるを免れず。或は假令ひ直接に斯る恐慌を誘起せずとするも、産業の上に起れる需要供給の不平衡の平均に歸するを妨害して其不景氣を繼續せしめ、間接に恐慌誘起の原因と爲るを免れざるなり。

唯々斯る貨幣價值の變動は輒近各國に於ける貨幣に關する智識の著しく進歩せる結果、豫め勉めて之を避くるの手段を講せらるゝに至れりと雖も、併し斯る根據ある貨幣價值の變動に依るに非ずして單に一定時に於ける支拂資料の不足の爲に意外の恐慌誘發せらるゝことあるは又吾人の屢々目撃する所なり。即ち近代の如く金融關係の複雑せる社會に於ては多量の正貨輸出又は不注意なる銀行の營業政策の結果として市場に於ける通貨の存在高著しく減少し、一定時に於ける支拂の需要を満たすに足らざるに至ることなきに非ず。然る時は單に此貨幣缺乏の爲に社會の一部に支拂不能に陷るの支拂義務者を生ず可く、而して該支拂義務

者爲に破産に陥るに至る時は其破産は關係權利者に影響を及ぼして更に新なる支拂不能者を生ずるを免れざる可く、斯くて一部の破産は順次他の關係者に其影響を及ぼして遂に破産相次ぎ、交易爲に沮喪し、生産爲に遲滯し不景氣永く繼續するに至るの結果を生ずるなり。

然り而して斯る貨幣上の恐慌は支拂義務者をして信用に依り其債務償還又は支拂延期を爲すを得ざらしむるが故に、又同時に信用上の恐慌を伴ふの常なれども、併し信用上の恐慌は又通例過度なる信用の膨脹に基きて發生するの風あり。詳言すれば此恐慌は數多の企業家が有價證券又は商品の取引若しくは生産事業設立の爲に過大の借入を爲したるに基因すること頗る多し。蓋し斯る借入は其取引又は企業の收益より之を償ふ可きものなれども、投機旺盛の場合には此收益多くは豫想の如くならざるを以て、此種の企業家は多く借入資金辨償の資を得る能はざるに至り、支拂の停止此に起りて信用及び消費の制限之に次ぎ、遂に生産の緊縮を見るに至るなり。故に普通の場合には信用上の恐慌先づ起り、其結果として生産上及び商業上の所謂産業恐慌を見るものなるも、信用恐慌が例令ば戦時の如く

外界の事變に對する恐怖心より來れる場合には、産業上及び貨幣上の恐慌と相平行して同時に發生することなきに非ず。即ち何れの場合に於ても産業上の恐慌は概ね此信用上の恐慌と形影相伴ふの狀あるを知る可し。

六

要するに不景氣と其甚だしきものたる所謂産業界の恐慌とは交易的經濟社會に於ける生産より消費に至る經過の上に生ずる波狀的變動の一節なり。經濟的經過の流れにして何等の障害に遭遇することなく、平滑なること鏡の如き狀を呈せる平靜の社會ならんには遂に之を見ることなかる可きも、苟も多少の障害に逢着し此に多少の波動的高低を生ずるに於ては當然免る可らざるの現象なり。而して此波動を生ぜしむ可き障害の現經濟社會に存すること前述の如きものありとせば此現象は爾今常に尙ほ永く此經濟社會に其跡を絶たざるものと觀せざるを得ざる可し。

然り而して此波動的現象は之を惹起すの原因如何に依りて其波狀にも亦自ら多少の相違ある可く、從つて其の再び平靜に歸するの經過にも亦それ〴〵に多少

の相違を現す可し。即ち例令ば技術又は生産方法の變更より來れる恐慌は其新生産方法一般に普及して劣等なる舊來の生産方法の全く廢滅し去るに依り此に其常態の復歸を見る可く、勞力と資本の割合の變動より來れる恐慌は移住又は資本の増加に依りて初て平靜に復歸す可く、又貨幣缺乏より來れる恐慌は通貨の増進若しくは信用の興復に依りて初て恢復の緒に就くに至る可きが如し。然れど此恢復の順序が何れの點に初まり如何なる經過を示すに論なく、不景氣及び恐慌の恢復に向ふ大體の徑路は何れも同一にして、即ち其不景氣に遭遇せる産業の企業家中抵抗力の最も薄弱なるもの先づ其物價低落に堪えずして沒落し、供給の減少此に起りて其減少が不景氣の爲に減じたる需要の程度に適合し得るに至りて即ち止むなり。斯くて需要の減少が企業家を強制して其供給を適度に減少せしむるまでには通例幾多の日月を要し、其間に於ける企業家各自の自存の爲にする惡戰苦闘は非常に其資力に打撃を與ふるものあるが故に、一朝供給か需要と均衡を示すに至れる際に於ても、企業家の經濟的能力は非常に萎微衰弱の狀あるを免れず。其衰弱が恐慌以前の健康狀態に恢復するまでには尙ほ幾多の長き歲月を要するの

常なり。

要する不景氣恐慌は經濟社會に發する一種の疾患なり。疾患の一度人體に發するや之が治療の爲に幾多の手術藥療の施し得可きものありと雖も、其全癒に至る迄には患者其人は幾多の節欲と苦痛とを忍ばざるを得ず。不景氣及び恐慌の爲に企業家及び勞働者の蒙る損害は恰も此患者の苦痛及び衰弱と等しく、一度此苦痛を忍び其衰弱の域を經過せざれば其經濟社會は一陽來復の樂を享受するを得ざるなり。勿論其苦痛を緩和し其衰弱恢復を促進する醫療的手段は多少存せざるに非ず。例令ば企業家の聯合に依り速に適度の生産制限を試むるが如き、或は中央銀行の巧妙なる金融政策に依りて貨幣及び信用の緊縮を緩和するが如き、將た或は關稅政策に依りて外國の競争を緩和するが如き、乃至は外資の輸入に依りて一時的の資本不足を補はんとするが如き何れも此疾患に處するの對症的若しくは根本的治療法の一つなりと雖も、然かも斯る外界よりの施設のみに依りて全く疾患の苦痛と衰弱とを免れんとするは不可能のことなり。需要の狀態に應ぜざる生産の方針は之を改めざる可らず。過度に奔騰せる物價は早晚正常の物價に復歸せざ

る可らず。一時の投機熱に勃興せる生産業は適度に之を緊縮若しくは淘汰せざる可らず。平靜なる状態の下に正常の生産をして正常の需要に應せしむるは經濟的進歩の爲に必須の要件なり。而して不景氣及び恐慌は一度此正常の状態を逸出せる産業をして更に其正常状態に復歸せしむるの際に避く可らざるの現象なり。果して然りとせば爲に蒙る生産従業者の苦痛は眞に同情す可きものありとするも、然かも一面より觀れば經濟界の健康状態正に恢復に向ふの徴候として、總て來る光明の日を祝福するも不可なきなり。マックス・グーデルト氏嘗て其名著恐慌論中に述べて曰く、恐慌は恐る可き一大雷雨の如し。雷雨は實に閃電雷鳴と大雨を生じ人畜を殺し倉庫を燒き、洪水を沃野に汜濫せしめ、家畜及び農作果實の非常なる損失を致さしむるものありと雖も、然かも其經過せる地方全般に對して非常に收獲を増大せしむる膏雨の澤を與ふるものなり、恐慌の效果亦正に斯の如きものありと。又至言と云ふ可し。

夫れ疾患の一度身に發するや相當の苦痛と衰弱は免る可らず。健康の祕訣は常に注意して其疾患を發生せざらしむるに在り。之と等しく恐慌も不景氣も一度發したる以上相當の損失と相當期間の市況沈滯は之を免る可らず。要は其發生の原

因を削除して之を未發に防ぐに在り。輒近に於ける經濟的智識の發達普及は中央銀行の運用、企業聯合の組織等多少の恐慌の原因削除の手段の發明應用せらるゝに至り、一般企業家の態度亦爲に大に慎重と爲るに至りて、此經濟的疾患稍、減少するに至るの状なりと雖も、愈々益々複雑となれる現經濟社會の組織は未だ容易に此病根を根絶するを得ざらしむるものあり。如上の諸原因は常に多少の不景氣と恐慌とを發生せしむるなり。此間に處して各個人の經濟上留意す可きは各自常に警戒して其經濟的實力の充實に勉め、縱令ひ一時此る疾患の苦痛に遭遇するも能く之に堪えて恢復の日を待ち得るに勉むるの一事なる可し。各企業家資本家及び勞働者にして平素慎重此點に注意するに於ては希くは生産及び消費の方針何れも激變を來たすが如きことなく、不景氣及び恐慌の襲來亦爲に大に減せらるゝに至らん。之を是れ思はずして平時に戒慎の實なく輕舉暴進を事とし、一朝恐慌の襲來するに及んで政府其他の外界より與へらるゝ應急的治療にのみ便るの有様ならんか、平素の健康に注意せず、疾患の發生に及んで一時的の興奮劑に其身を託する患者と等しく其全癒の日遂に期す可らざる可し。一言以て朝野の經濟關係者の一顧を煩はす所以なり。(大正三年十二月十五日稿)